介護部会　　横浜北部ブロック会議　報告書

実施日　平成２９年１２月１日（金）１４時～１６時

会場：若葉が丘

参加人数　　　７施設　１３名参加

参加施設　　　しらさぎ苑、 ナーシングプラザ港北、ウェルケア新吉田、荏田あすなろ、

都筑ハートフルステーション、ベルディーナ高田、ソフィア都筑、若葉が丘

議事項目　介助量（排泄・食事介助・センサー・立ち上がり・特浴・付き添い）の多いフロアに対しての対策をどうしているか。フロアの現状と施設全体の取り組み。

**内容**

**A施設**

・排泄介助５グループで行っている。終わった所を手伝いに行っている。

・食事１２時スタート。午前中風呂が押していて食事が１２時にスタートできない事がある。

・職員７～８人　食事介助　３人＋ナース　食介が終わったら１２：３０からトイレ誘導

・中間入浴は時間に追われている。

・立ち上がり見守りはリスクがある人10名ほどを集めて対応している。

・トイレの訴え、帰宅願望など不穏になることが多いが介護１名NS1名で見守って

いる

・センサーマット４人程度　クリップセンサー８名ほど。特に見守りが必要な方は部屋をステーションから近くしている。センサー対応が重なり転倒転落が増えてきている。

・慢性的に人員不足。満床ではないが、日々仕事に追われている

**B施設**

・人員が少ない。退職者がでると偏りが出て、フロアに負担がかかる。非常勤を採用している。

・利用者の重度化があり食事介助では居室対応が増えている状況。（看取り等）

・HPに行ってからADLが落ちて帰ってくるため、機械浴対象が増える。対象者が１０人以上になっていることがある。

・センサーマットの使用者が増えてきており30台程使用。重度化とセンサーについてのカンファレンスが不十分であるため、センサーが増えている。

・食事介助　他部署、ケアマネ、相談等他部署から応援に来てもらっている。

・土日祝日大変なことになっている。いる職員で回しているときは居室の方は時間を少しずらして介助に入っている。覚醒が悪いときはなかなか進まない時が多い。

・フロアの人数を把握して、その日のスタッフがそれぞれに何人いるかの把握を施設でして、手伝いに来てもらえるようにしている。

・時短パートを募集しているが、覚えるまでに時間がかかる。指導担当部署のスタッフが

１～２か月かけて教えていく、それからフロアに入ってもらうようにする。

・可能な人は公休を減らしてやってもらっていることも。

・利用者自体減っていても重症者が残っている

**C施設**

・介護補助二人増やしている

・機械浴が増えている。曜日を変えたりして対応している

・センサーマット５台。センサーベッドも使用している

・人が足りない時は残業で対応してもらっている

**D施設**

・一般棟　５０床　　スタッフ5.5名欠員。

・業務の仕方を検討しなおした。Aグループ３名Bグループ２名

・NSにも全面的に介護業務を行ってもらっている。記録、対応、全体をみる人

・食事介助の人数を７名としている。７名以上になると３０分日勤が残る対応。

・センサーマット２名　臥床時のみ４名使用。都度センサーの会議をして検討もしている

・入浴パートを増やしている。傾聴ボラに来てもらっている。他部署からフォローに来てもらう

**E施設**

・介助４０床×２　食事介助　介護度が高くない人が多い

・反面、立ち上がり等リスクが多い人が多く、付き添いが増えている。センサーも入れている

・職員一日5人で組んでいる。利用者の人数に関係なく行っているため、手がかかる人が増えていると大変になる。

・在宅に本当に帰る人はフロアでも自立させる取り組みを優先的に行っている。

・アシスタントや介護補助を増やしていて、アシスタントが時間によっては多かったりするので業務を分担して回している

**F施設**

**一般棟**

・食事介助全介助１０名　朝は栄養課にお願いして一台早めにお願いして行っている

・立ち上がりが多い方は床マットやソファにしている

・センサー　５名。無線になっているため部屋の入口に入れてそこで出入りをチェックしたりもしている。会議をし、増やさないほうで考えて行っている

・特浴は３Fしかないため、３Ｆスタッフにお願いしたり、３Fで個浴に入れない方は他フロアのシャワーチェアで入っている

・環境専門パートがおりシーツ交換、配茶などなど　間接業務をお願いしている分スタッフは利用者と向き合えている

**認知棟**

・30名　食事全介助５名　食事に集中できない人等いるが声掛けでなんとかなっている。

・朝食は３名で回している。食事介助に時間はかかっていない

・排泄は定時＋訴え時　トイレの訴えの多い方や立ち上がり多く、つききりになってしまう

・センサー１０台は使っているが、柵の間から出てきたりセンサー側から出てこない場合が多い。転倒時のリスク対策として痛みの軽減につとめている。（ヒッププロテクター、ニット帽、タオル等。）

・入浴は、暴れてしまう方や重い方以外は個浴で入ってもらっている。

**G施設**

一般棟

・満床ではないが食介者が多い。

・食介１０名。夜勤帯に介助が大変なので、夕食１７時食を５名　日勤帯で対応している

・介護補助２名パントリー業務。退所後のシーツ片付け。

・不穏の方は連れて歩くことで行動の把握に努めている

・２、３階がフロアで１階に風呂なので、誘導を車両部や相談に手伝ってもらっている

認知棟

・36～37名

・週末は定時の排泄交換は減らしたり、適宜排泄パターンを見直したりしている。

・食介２０名居た時は回らないため、他部署にお願いした。食事の早出しや転ベッドで対応している

・見守り必要な時はNSにステーションから出てきて見守ってもらっている

・センサー頻回の人が多く現状困っている。

**H施設**

・排泄介助の負担に対し、トイレ定時誘導が必要か検討しなおして誘導の人数を見直している。

・食介　５～６名。夕食の早出し。朝は無理せず、日勤帯での対応もお願いしている。

・センサー１０～２０台程使用。すぐ壊れたり壊してしまう事があるため新しいものは買わないようにしている。

センサー使用については必要かどうか検討する場を設けている。動き出しの多い人はステーションの近くで対応。

・立ち上がりで対応困難な利用者は現在いない。

・入浴３０名　９時半～１４時まで　処置はNSに入ってもらっている

・重度化している人が増えているときは現場の意見を伝え入所の調整をしてもらっている

以上